

みるみる

観る 見る



京都府立中丹支援学校

自立活動部だより 第2号

令和3年6月18日(金)発行

6月に入り、蒸し暑い日が続いています。今年は例年より早く梅雨入りしましたが、晴れた日にはグラウンドや中庭で元気に走り回る子どもたちの姿が見られ、じめじめした天気を吹き飛ばしてくれそうです。

さて、今回の「みるみる」第2号では、各分野の視点から日常生活で大切にしたいことや御家庭でも取り組めることについて紹介します。子どもたちの実態に応じて参考にしていただけたらと思います。また、御家庭でお困りのことや気付かれたことなどありましたら、お気軽に御相談下さい。



「からだ」担当より

—お風呂の後のストレッチ—



手足や体幹に不自由なところがある人や体の使い方にぎこちなさがある人は、体のいろいろな関節の周辺が硬くなりがちです。本校では、朝の準備が終わってから、体の内部まで温めるために10分間程度、温かいお湯に足をつけて足浴に取り組んでいる学級があります。机上で好きな絵本を読むなどの活動をしながらお湯に足をつけるだけでも気持ちがりラックスする効果があり、普段硬くなりがち足首の周辺の筋肉も柔らかくなります。その後は、拘縮を予防するためにつける装具がとてつけやすくなります。家庭では、お風呂にゆったりと入浴される機会があると思います。関節の周りの筋肉などが伸びやすい状態になるので、普段よりも足の曲げ伸ばしや関節を回す動作などがしやすくなります。それぞれに取り組んでおられるストレッチをお風呂上がりに習慣づけられるとより効果をあげることができます。



御家族みんなでも取組まれても気持ちがいいですよ！

「療育」担当より

人と関わる力 —社会性— を育てる



ASD（自閉スペクトラム症）の障害特性の一つに「社会性の障害」があります。人と関わるのが苦手だったり、困難さがあったりしますが、近年の研究では、人との関わりを教え、経験していくことで、社会性の障害は改善していくこと、人と関わる力が育っていくことが分かってきています。

本校でも、挨拶をする・挨拶を返す、友達や指導者を意識する、ペースやタイミングを合わせて協同するなどの社会性を育てる活動を、日々の授業の中で意図的に設定しています。

家庭でできる取組 —挨拶をしよう・挨拶を返そう—



挨拶は、人との関わりの第一歩です。まずは挨拶されたら、挨拶を返すことから始めましょう。挨拶には、相手に気付く、相手を見る、相手の言葉を聞く、反応や身振りや言葉で返すといった、人との関わりの要素がたくさん含まれています。言葉で、ハイタッチで、相手を見て返すなど、子どもによって返し方は異なりますが、人からの挨拶に気付き、返す習慣を、御家庭でも意識して取り組んでみていただければと思います。



「言語」担当より



ことばの力を育むために



ことばの力を育むために必要なのは、発音訓練や言葉を教え込むだけではありません。日常生活や遊びの中で、全体的な体の発達を促し安定した関係や環境の中で情緒（こころ）が育ち、その上に音を聞き分けたり発音をつくり出したりする力が備わることで、豊かな“ことば”が育ちます。

“ことば”は話し言葉だけでなく、表情、視線、指さし、サイン、カード、手話、書き言葉など全てを含めて“ことば”として捉えています。生活の中で見せる一つ一つの子どもたちの“ことば”を大人が言語化にして意味付けし、“ことば”として積み上げていくことがとても大切なことです。例えば、散歩をしていて犬を見つけたときに「犬来たね。大きいね。」と見えたことを言葉にしたり、好きなものを食べたときに「おいしいね。」と感じたことを言葉にしたりするなど、毎日の何気ないこと一つ一つが子どもたちの理解言語に繋がり、表出言語へと育っていきます。忙しいとつい見落としがちなかもしれませんが、立ち止まって子どもたちとことばを重ねていきたいですね。

大好きで頼りにしている大人のことばを聞いて、
「まね」から「学び(まねび)」が始まります。